

つづじ さき やかた たけだ し やかた あと
躑躅が崎館 (武田氏館跡)

武田信虎は、永正16年(1519)8月15日から館の建設を開始し、12月20日に川田館より居を移します。甲斐国統治をめざす信虎が、館周辺に家臣等を集住させ、

一国を統治する新たな支配体制を確立させるためです。

館が築かれた相川扇状地は、三方を山が囲い、西に相川、東に藤川が南流する天然の要害を形成していました。

初期の館は主郭のみで、守護館の伝統を踏まえた方形単郭の構造でした。天文年間の二度の火災を経て館

は改修され、天文20年(1551)には、晴信の嫡男義信の婚姻に際し西曲輪が増築されます。北側一帯には、味噌曲輪・稲荷曲輪などが増設され、勝頼の時代までに付属郭群も含めた館機能の拡充が進み、全国最大級を誇る戦国大名の居館となりました。

天正9年(1581)12月、館は廃棄され、府中は韮崎の新府に移ります。天正10年3月、勝頼が亡くなると、織田・徳川・豊臣の各氏は再び甲府を統治拠点に定め、館を再利用しました。大規模な改修が実施され、主郭北西隅に天守台、南西に梅翁曲輪が築かれます。

甲府城築城後、館は廃城となります。その後100年近くを経て、柳沢吉保・吉里の治世には梅翁曲輪に下級家臣の組屋敷が建てられます。以降、館跡の一部は開墾されて田畑と化します。主郭には武田信玄を祀った法性大明神の石祠が建てられ、大正8年(1919)に武田神社が創建されて現在に至ります。

武田氏三代



武田信虎(1498~1574)

若くして武田家の当主となり、甲斐を統一します。館を移すとともに甲斐新府中を開き、戦国大名としての礎を築きました。



武田晴信(信玄)(1521~1573)

元服して晴信、仏門に入って信玄を名乗ります。甲州金の制度や、独自の量制「甲州栴」の制定を行ったと伝えられています。



武田勝頼(1546~1582)

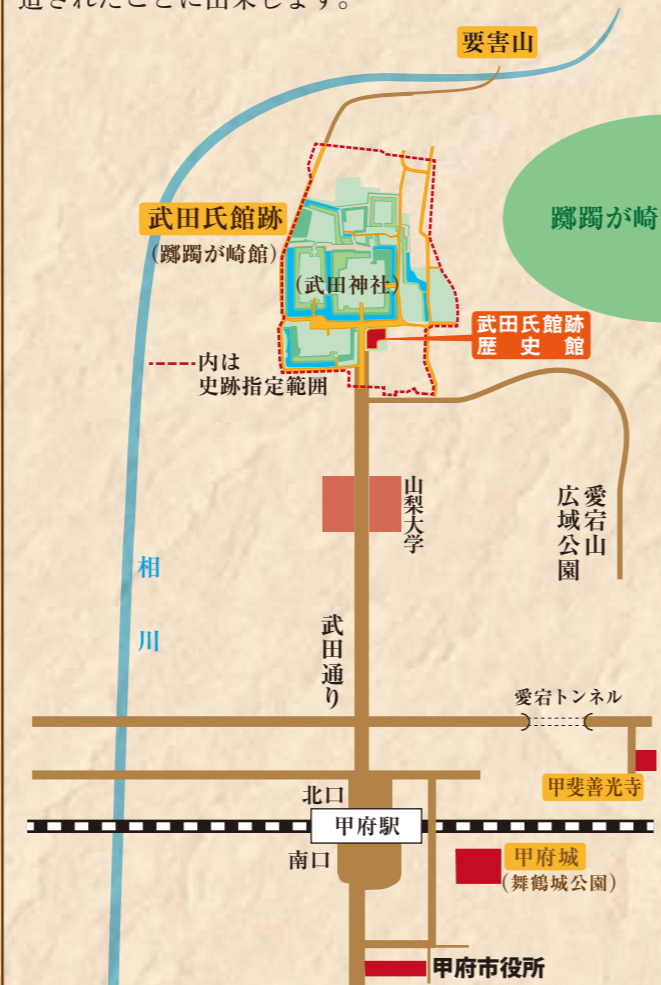
母は諏訪頼重の娘で、諏訪氏の家督を継ぎます。兄義信の失脚などから信玄の後継者となります。数多の戦によって勢力範囲を武田氏時代最大としました。

躑躅が崎館関連年表

年号	西暦	出来事など
永正16年	1519	武田信虎、躑躅が崎館を築く。この年に有力国人衆の集住が断行される。
永正17年	1520	栗原信友など有力国人衆が府中を退去。積翠寺丸山(要害山)に城を築く。
大永元年	1521	駿河勢乱入。大井夫人、要害山へ避難。武田晴信誕生。
天文2年	1533	躑躅が崎館焼失。
天文7年	1538	躑躅が崎館で和歌の会が開かれる。
天文10年	1541	晴信、父信虎を駿河へ追放。
天文12年	1543	武田道隆の屋敷から出火し、躑躅が崎館類焼。館の再建に着手。
天文20年	1551	嫡男義信と今川氏の娘の婚儀に伴い、西曲輪の造営が始まる。
永禄4年	1561	第4回川中島合戦。
天正元年	1573	信玄、信濃国駒場で病死。
天正3年	1575	長篠の合戦、武田軍大敗。
天正9年	1581	勝頼、新府城を築城し、移転。躑躅が崎館破却。
天正10年	1582	武田氏滅亡。織田信長、躑躅が崎館に築いた仮御殿に入る。本能寺の変により、甲斐を領有した河尻秀隆は一揆に襲われ死去。徳川家康入国。北条氏と新府で対陣。謙和後平岩親吉に甲斐を守備させる。
天正18年	1590	羽柴秀勝、甲斐を領有する。
天正19年	1591	加藤光泰、甲斐を領有する。躑躅が崎館の大規模改修を実施。
文禄2年	1593	浅野長政・幸長父子、甲斐を領有する。その後、甲府城築城に伴い躑躅が崎館廃城。

躑躅が崎館

武田氏の居館は、一般に「躑躅が崎館」と呼称されます。これは、相川扇状地の東側を区切る山々から半島状に突き出た尾根が「躑躅が崎」と呼ばれ、その先に館が築造されたことに由来します。



史跡武田氏館跡への交通のご案内

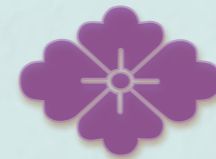
- 甲府駅北口からバスで10分
- 甲府駅北口から徒歩で約30分

お問い合わせ

甲府市教育委員会歴史文化財課
電話：055-223-7324



国史跡



武田氏館跡

「甲府」の礎 武田氏三代の居館



武田氏時代の城下町の痕跡を留める相川扇状地



国史跡

武田氏館跡

武田氏館跡は、武田信虎・晴信(信玄)・勝頼が居住し政治を行った戦国大名武田氏の館跡です。

武田氏滅亡後も甲府城が築城されるまでの間、甲斐国統治の中心として再利用されました。

館跡の随所には土塁や堀・枡形虎口・馬出・石積みなど、特徴的な遺構が当時のまま残っています。戦国大名居館の構造を今日に伝える重要な文化財として昭和13年(1938)5月30日に国の史跡に指定されました。

昭和34年に史跡範囲南側一帯が「居住地域」に指定されてからは、宅地化の波が史跡に迫りました。そのため、昭和45年以降段階的に公有地化を推進し、平成6年(1994)に地元住民のみなさんのご理解とご協力を得て「史跡武田氏館跡保存管理計画」を策定しました。平成16年には整備基本構想及び整備基本計画を策定し、歴史的風土に根ざした保存・整備を進めています。

発掘調査は、昭和54年まで山梨県教育委員会が実施していましたが、それ以降は甲府市教育委員会が引き継ぎました。現在、戦国大名武田氏の歴史や文化を学習する場として活用できるよう、調査研究と整備に取り組んでいます。